

試されると金のように

ヨブ記 22-24 章

はじめに

ー昨年から少しずつ旧約聖書の「ヨブ記」を学んでいます。今日は 22-24 章に書かれている内容から学びたいと思います。

1. ヨブの試練と信仰

ヨブは、誠実な心を持っていて、神様を愛し悪から遠ざかっている人でした。神様は、そんなヨブを祝福して、多くの財産と多くの子どもたちを与えられました。

しかしそんなヨブに、サタンが目を留めて、神様にこう言うのです。「ヨブは、あなたに祝福されて、多くの財産と多くの子どもたちに恵まれているから、あなたを愛しているに過ぎません。もし財産と子どもたちを失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに違いありません」。

そこで神様はサタンに、ヨブの財産と子どもたちを奪うことを許可しました。するとヨブは、犯罪や自然災害に巻き込まれて、一日のうちにすべての財産と子どもたちを失ってしまうのです。

しかしヨブは、そのような試練の中でも、決して神様への信仰を失いませんでした。彼は、神様を礼拝してこのように言います。「**私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな**」(ヨブ記 1:21)。

するとサタンはもう一度、神様にこう言います。「ヨブは、財産と子どもたちを奪われても、健康に恵まれているから、あなたを愛しているのです。もし健康を失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに違いありません」。

そこで神様はサタンに、ヨブから健康を奪うことを許可します。するとヨブは、足の裏から頭のとっぺんまで、悪性の腫物で侵されるのです。夜眠れないほどの痛みがあり、やせ細っていきます。内臓も侵され、それが原因で体から悪臭が出るようになりました。その結果、人々からも避けられ、ゴミのように扱われます。そして妻からも、「**神を呪って死になさい**」(ヨブ記 2:9)と見捨てられ、ついに妻は神様への信仰を捨てていきます。

しかしヨブは、そのような試練が続く中でも、神様への信仰を失いませんでした。彼は、妻に向かってこのように言います。「**あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざ受けるべきではないか**」(ヨブ記 2:10)。

ヨブは、財産を失い、子どもたちを失い、健康も失い、妻の信仰を失ってもなお、神様への信仰を捨てなかったのです。

2. 三人の友人

ヨブには、三人の友人がいました。テマン人エリファズ、シュアハ人ビルダデ、ナアマ人ツォファルの三人です。彼らは、ヨブが災いの中で苦しんでいると聞いて、ヨブを慰めに駆けつけます。彼らは最初、ただヨブのために涙を流し、七日間（一週間）いとことも語らずに、ヨブのそばに寄り添い続けたのです。

しかし三人の友人は、ヨブと会話を交わし始めると、次第に態度が変わっていきます。ヨブ記は全部で42章までありますが、3-31章までは、ヨブと三人の友人との討論が書かれています。彼らは何を巡って討論していたのかと言うと、それはヨブの災いの原因は何かというものです。

三人の友人は、ヨブの災いの原因を「因果応報」の原理で解釈して、ヨブを教え導こうとします。「因果応報」とは、人は必ず自分の行いによって報いを受けるというものです。善いことをすれば祝福を受け、悪いことをすれば裁きを受けるというものです。

三人の友人は、ヨブの災いの原因は、ヨブの罪にあると考えます。ヨブが何か大きな罪を犯しているから、このような大きな災いに遭っているのだと言うのです。だからヨブがもし、自分の罪を認めて悔い改めるなら、災いは終わり、神様の祝福を取り戻せるはずだとヨブを教え導くのです。

3. テマン人エリファズの第三の言葉

これまで4-7章と15-17章に、テマン人エリファズとヨブの討論が書かれていましたが、22-24章には三回目のエリファズとヨブの討論が書かれています。

22章でエリファズは、相変わらず「因果応報」の原理で、ヨブを責め、教え導こうとします。22：4-5にはこうあります。「**あなたが神を恐れているためか。神があなたを責められるのは。神があなたとともにさばきの座に入って行かれるのは。いや、それはあなたの悪が大きく、あなたの不義に際限がないからではないか**」。エリファズは、ヨブが災いに遭っているのは、神様に裁かれ、責められているからだと言います。そしてその原因は、ヨブの罪と悪があまりにも大きいからだと言うのです。

それゆえエリファズはヨブに、22：21-23でこう言います。「**さあ、あなたは神と和らぎ、平安を得よ。そうすれば幸いがあなたのところに来るだろう。神の口からみおしえを受け、そのみことばを心にとどめよ。もし全能者に立ち返るなら、あなたは再び立ち直る**」。エリファズは、ヨブの災いの原因はヨブの罪と悪にあると信じて疑いません。そのためヨブに悔い改めを迫るのです。そしてもしあなたが悔い改めるなら、神様の祝福を取り戻し、幸せになると説得するのです。

しかしエリファズの説得は、全く的外れでした。ヨブの災いの原因は、決してヨブの罪と悪にあるではありませんでした。それは、ヨブが災いの中でも、神様への信仰を捨てないかどうかの試練だったのです。

ヨブには全く罪や悪がなかったわけではありません。しかしヨブは、自分の罪を贖ってくださる方がいると信じていたのです。それゆえ自分は、神様の恵みの中にいると信じていたのです。ですからヨブには、災いの原因が自分の罪と悪にあるとは到底考えられなかったのです。しかし恵みの神様がなぜ突然、自分に災いをもたらすのかが分からず、苦しんでいたのです。

22章には、エリファズの信仰がどのようなものであるかが、少し見えてきます。22：2-3でエリファズはこのように言います。「人は神の役に立てるだろうか。賢い人でさえ、ただ自分自身の役に立つだけだ。あなたが正しいからといって、それが全能者の喜びとなるだろうか。あなたの行いが全きものであるからといって、それが神にとって益になるだろうか」。エリファズにとって神様は、人間に無関心の方です。人間が賢くても、正しくても、完全な行いをして、神様は喜びもしないし、神様にとって何の役にも立たないし、益にもならないと言うのです。22：12-14でもこのように言います。「神は天の高きにおられるではないか。星々の頂を見よ。それらはなんと高いことか。あなたは言う、『神に何が分かるだろうか。黒雲の中からさばくことができるだろうか。濃い雲が覆いとなって、神は見ることができない。神は天空を歩き回るだけだ』と」。神様は天におられるので、地上のことを見ていない、人間のことなど見ていないと言うのです。

エリファズにとって神様は、「因果応報」の原理に従って、機械的に祝福と裁きを与える方です。エリファズにとっては、神様と人間の人格的な交わりはないのです。ヨブはこれまで、自分の苦しみを神様に必死に訴えました。しかしそれでも神様が答えてくださらない、その理由が分からずに苦しんだのです。つまりヨブは、神様との人格的な交わりを求めたのです。

私たちが信じる三位一体の神様は、父・子・聖霊の中で人格的な交わりを持っておられる唯一の神様です。ご自身の中に豊かな交わりを持っておられるので、私たち人間とも人格的な交わりを持たれる方です。神様は確かに善に報い、悪を裁かれる方ですが、決して「因果応報」の原理に縛られる方ではありません。私たちを愛し、イエス・キリストの贖いによって、私たちの罪を赦してくださる方です。それゆえ私たちは、イエス・キリストを通して、神様の御前に大胆に近づき、祈りを通して豊かに交わることができるのです。

4. エリファズに対するヨブの言葉

ヨブは23章で、神様との交わりを求めます。23：3-5にはこうあります。「ああ、できることなら、どこで神に会えるかを知って、その御座にまで行きたいものだ。私は神の御前に自分の言い分を並べて、ことばを尽くして訴えたい。神が私に答えることばを知り、神が私に言われることをわきまえ知りたい」。ヨブは神様との人格的な交わりを求めます。そして、自分がなぜ災いに遭わなければならないのか、その理由を知りたいのです。恵みの神様がなぜ突然、自分に災いを遭わせるのかと。

しかしそれでも神様は答えてくださらないのです。22：8-9にはこうあります。「だが

**見よ。私が前へ進んでも、神はおられず、うしろに行っても、神を認めることができない。左に向かっ
て行っても、神を見ることはなく、右に向きを変えても、会うことができない**」。いくら神様を求め
ても、いくら神様に訴えも、神様はいっこうに答えてくださらないのです。ここにヨブの
悲しみがあるのです。

このようなことは、私たちもしばしば経験することです。イエス様を信じてクリスチャ
ンになったけれども、人生は決して順風満帆ではありません。病気になったり、家族に問
題が起こったり、人間関係にトラブルが起きたり、あらゆる苦しみや悲しみを経験するこ
とがあります。そのような時に私たちは必死に祈りますが、神様がなかなか答えてくださ
らない、状況がいっこうに良くなならないということがあります。私たちを愛してくださる
神様が、なぜこのような状況を許すのか、その理由が分からず私たちは苦しむのです。

ヨブは 24：1 でこう言います。「**なぜ、全能者に時が隠されていないのに、神を知る者たち
には神の日々が見られないのか**」。神様は全知全能の方で、すべてを支配し、すべてを知っ
ておられる方です。しかし神様を信じる私たちには、神様の報いや裁きが見られない時が
あるのです。早く神様が御手を動かして、私たちの行いに報いてほしい、また悪を裁いて
ほしいと願っても、神様がなかなか御手を動かしてくださらない、そういうことがしばし
ばあるのです。

ヨブは 24 章で、この世の矛盾した現実を嘆きます。エリファズは「因果応報」の原理
で、正しい人は報われ、悪い人は裁かれると言いますが、この世の現実はその簡単には割
り切れないとヨブは言うのです。

悪い人は繁栄し、社会的に弱い立場にある人が益々苦しめられる現実があるのです。
24：12 には「**人の住む町からうめき声が起り、傷ついた者のたましいが助けを求めて叫ぶ。し
かし、神はその叫び声に心を留められない**」とあります。社会的に弱い立場にある人が叫んで
も、神様がいっこうに助けてくださらないように見える現実があるのです。また 24：23
に、「**神が彼に安全を与えるので、彼は支えられる。しかし、神の目は彼らの道の上に注がれる**」と
あるように、神様が悪い人たちの繁栄を支え、祝福しているのではないかと見える現実も
あるのです。この世の現実、決して「因果応報」の原理ですべて説明できるものではな
く、矛盾だらけであること、正しい者が苦しみ、悪い者が栄える現実があること、しかし
なぜ神様がそれらを許しているのか、その理由が分からず、ヨブは苦しんでいるのです。

しかしヨブは最後にこう言います。「**今そうでないからといって、だれが私をまやかし者だと言
えるのか。だれが私のことばをたわごとと見なせるのか**」。今は、この世の現実、矛盾だらけか
もしれない。悪い人が裁かれず、正しい人が報われない現実があるかもしれない、しかし
「今そうでないからといって」、これからもそうでないとは限らないのです。ヨブは未来
に希望を持っているのです。神様が必ず正しい者に報い、悪を裁かれる時が来ると信じて
いるのです。たとえこの世においては、悪い人は裁かれず、正しい人が報われなかったと
しても、世の終わりの最後の審判の時に、神様は必ず悪い人を裁き、正しい人に報われ
る、公平な裁きをしてくださるのです。

おわりに

ヨブは、矛盾に満ちた現実を嘆きました。自分の身に起きた災いの理由も分からずに苦しみました。しかしヨブは、「今そうでないからといって」、決して希望を失いませんでした。神様がやがて公平な報いと裁きをしてくださると信じたのです。

ヤコブ 5：11 には、こうあります。「**見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いですと私たちは思います。あなたがたはヨブの忍耐のことを聞き、主によるその結末を知っています。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます**」。ここには、ヨブの忍耐について書かれています。ヨブは、矛盾に満ちた現実の中で、また試練の苦しみの中で、忍耐し続けたのです。「今そうでないからといって」、これからもそうではないとは思わず、神様への信仰を捨てず、希望を持ち続けたのです。

ヤコブ 1：2-4 には、こうあります。「**様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります**」。試練の時に、神様が私たちに求めていることは忍耐です。忍耐をすることで、私たちは成熟した者となっていきます。

最後に、23：10 のヨブの言葉を聞きましょう。「**しかし神は、私の行く道を知っておられる。私は試されると、金のようになって出て来る**」。私たちが経験する試練は、私たちが成熟した者となるために神様が与えてくださるものです。私たちが試練の中で、忍耐し続ける時、金のように磨かれた者、輝きを放つ者となるのです。

天におられる私たちの父なる神様。

この世の現実には矛盾で満ちていて、私たちの身に起こるすべての出来事の意味を私たちは知ることはできません。しかしあなたは確かに今も摂理によって、世界全体と私たちの人生を導いておられます。

私たちはあなたの御心が分からず、戸惑うこともあります。どうかあなたを信じて、耐え忍ぶことができますように。そしてやがて必ずあなたが御手を動かし、公平な報いと裁きをしてくださることを信じることができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。